

## 第5回 都庁周辺の空間再編に関する在り方検討委員会

### 1. 日時・場所

令和6年3月5日（火） 10:00～11:00

都庁第一本庁舎北塔 42階特別会議室B +オンライン併用開催

### 2. 出席者

別紙 出席者名簿のとおり

### 3. 議題

- ・ 開会
- ・ 議事
  - (1) 都庁周辺の空間再編計画（案）
  - (2) 今後の進め方
- ・ 閉会

### 4. 配布資料

次第

[資料1] 前回検討委員会からの整理

[資料2] 「都庁周辺の空間再編計画（素案）」意見募集の結果

[資料3] 都庁周辺の空間再編計画（案）

[資料4] 今後の進め方

[資料5] 参考資料

### 5. 議事概要

<議事>

#### (1) 都庁周辺の空間再編計画（案）

（事務局より資料説明（資料1・2・3・5））

#### (2) 今後の進め方

（事務局より資料説明（資料4））

（岸井会長）

- 資料3（都庁周辺の空間再編計画（案））について、最終的なご意見を頂きたい。

（坂井委員）

- P17について、最終的には愛称（キャッチフレーズ）をつけないとしたこと承知した。「東京のパブリックを世界に発信する」という文章の「東京のパブリック」とは何か気になる。「パブリックライフ」であれば意味は通ると思うが。事務局には事前に意見を伝えたところ、代案として「東京の魅力を世界に発信する」という案を聞いており、「魅力」もよいと思っている。「パブリック」という言葉がいけないのではなく、文章として公表された時に、どのような意味なのかという問いに答えられるかが疑問である。そのため、p.17について、この場で議論した方がよいと思う。

**(田中里沙委員)**

- 今回のプロジェクトは自信を持って内外にアピールできる状況になると思うが、何かが足りないとする  
と、これを正確に皆さんに知ってもらえるような発信だと思う。他の国でも、庁舎のような建物は一番の  
観光資源・ランドマークになっていることがある。都庁舎を含む都庁周辺が日本の新しいアイコンにな  
るということを打ち出すことが必要だと思う。また、本計画は「回遊」「ウォークブル」という点を大切  
に検討してきたため、回遊の仕掛け・種明かしということもPRして、多くの人にそのストーリーを知っ  
てもらい、訪れてもらう流れができるとよいと思う。
- プレイスブランディングという言葉があるが、場所自体をブランディングしていくことで、来る前、来た  
後、その先において、情報として伝わっていくので、10年あるいは20年の中で育てていくという形でも  
よいと思う。

**(泉山委員)**

- P17の将来像の文章について、「…過ごすことができる」と「東京の〇〇」の間で区切ると少し分かりや  
すくなると思う。また、「パブリック」については「パブリックライフ」や「パブリックスペース」とい  
うことを指しているかと思うが、パブリックコメントにもあまりカタカナを使わないようにという意見  
もあり、「魅力」のような平易な言葉にするのか、「パブリックライフ」のような言葉で強く打ち出してい  
くかは、さじ加減であると思う。

**(田中友章副会長)**

- P17については、皆さんの意見と同じである。

**(岸井会長)**

- P17については、文章全体を違和感なく読めるようにすることを意識し、カタカナが多いという意見も踏  
まえて、「魅力」のような言葉にするのがよさそうである。

**(田中友章副会長)**

- 前回指摘した箇所はおおむね修正してもらい、P28の4号街路沿いのスロープの角度なども色々なパター  
ンを検討したようなので、スムーズになってきたと思う。
- パブリックコメントの結果を見ると、緑を増やす、バリアフリールートを改善する、ふれあいモールに食  
事をする空間を作るなどの意見が出ている。元々計画に含まれていることであるが、意見を受け止めて  
進めていけるとよいと思う。また、建物自体の見学に関する意見もあった。展望室などは多くの人が利用  
していると思うが、他にも都庁には、何らかのガイドがあれば見に行く面白場所が結構あると思う。  
欧米で行われているようなガイドツアーや限られた機会に建物の普段見られないところを公開するよう  
なイベントなどを検討してもよいと思った。今後の展開の参考にできるとよい。

**(泉山委員)**

- P18に当時の設計思想を継承していく方向性について記載しているが、P9-10の「都庁舎の成り立ち」か  
ら「シンボル性・対象性の継承」という方向性をどのようにまとめたのかが読み取りにくいと感じた。P9-  
10の結論をまとめられると、P18に対応しやすいと思った。また、P18の「空間再編のポイント」につい  
て、内容はよいが、文字だけが並んでいると読みづらさがある。
- P38の「都民広場の在り方」について、一文目を短くした方が、都庁の役割や都民が集い憩えるというポ  
イントが明確になると思う。また、管理・運営の方法については今後検討していくことと思うが、「第4  
章 | 今後の進め方」にも、持続的な運営につなげることを検討すると記載した方がよいと思う。

**(新宿副都心エリア 環境改善委員会 技術担当理事)**

- P41 の「今後の検討など」について、「使いながら進化し、生き生きと使い続けられる場となる」とあるが、どのように使われたかを計測・評価し、改善していくことが重要だと思うので、計測・評価するという言葉を入れるとよいのではないか。また何を計測・評価するかについては、公共的空間での豊かな暮らし、言わばパブリックライフが生まれたかどうかが重要であり、そのパブリックライフがどう生まれて、どう変わったということを明確に伝えていくことが重要だと思う。都庁舎街区では先行的にベンチや芝生を設置されており、快適であると感じる一方で、場所や天気によっては使いにくいところもあるので、しっかり評価し、蓄積していくことが重要であると思う。

**(国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路事業調整官)**

- 今後、実際にこの場を使っていくにあたり、アクティビティに従って仕立てを変えるところはあると思う。何をその場で行っていくのかということと合わせて検討してもらえるとよい。
- P17 について、「魅力」とすると非常に分かりやすい反面、ぼやけてしてしまう感じもあるので、都の中でよく議論し、都の思いが伝わる言葉で発信できるとよいと思う。

**(泉山委員)**

- P17-18 の実現していきたい将来像の背景には、竣工当初と比べて、価値観や考え方の変化が圧倒的にあると思う。P11 にもシュクノバ等の記載があるが、写真を用いながら P17-18 の将来像のポイントを表現していくと、より実現したいポイント・将来像が伝わりやすくなると思う。

**(岸井会長)**

- 「東京の魅力」とすると平易だが、実現していきたいことは、これまでも都庁周辺にあった魅力に加えて、新しい東京の魅力を発信していくということだろう。そのために、P18 のポイントで空間再編を考え、エリアマネジメントも従来を超えた考え方で検討していくということなのだと思う。丹下先生の設計思想である、軸線・対象性をないがしろにせず、市民がそこに加わっていくことを目指しているということをうまく伝えられるとよい。

**(財務局庁舎運営担当部長)**

- 今回、先行整備を行い、鍵を握るのは都民広場であると感じた。木陰ベンチや腰掛ベンチを設置したが、ほぼ満席であり、軽食や雑談などで利用されている状況である。また、サンクンプラザにもテーブルや椅子を設置しているが、お昼過ぎにはほぼ満席状態である。来年度以降、実施設計を進めていくが、先行整備の結果を踏まえて設計していきたいと思っている。逆によいことばかりではなく、椅子の隙間にゴミを詰められたり、たばこの吸い殻のポイ捨てがあったり、階段ベンチも階段だと思い歩いていく人がいたりするなど課題も見えてきたので、良い所・悪い所を評価しながら進めていきたい。

**(岸井会長)**

- 整備したことを利用する皆さんがどのように評価するのかということだと思う。繰り返しながらブラッシュアップをしていければよい。先行整備も実験的にやっているということで、一般の方が見た時にどのように感じるかよく検証していく必要がある。使い方を見ながらブラッシュアップしていき、よいものにしていければよいと思うし、そういうことを繰り返すことで使い手・担い手が出来てくる。都庁周辺の空間再編計画をつくったことがゴールではなく、スタートだと思って取組を進めてほしい。

(事務局)

- 本日いただいた意見を踏まえて計画を修正し、会長と最終確認の上で策定する。

以 上